

2020年8月2日（日）聖霊降臨後第9主日 平和聖日

## 銀座教会 主日家庭礼拝

### 礼拝招詞

「主は国々の争いを裁き、多くの民を戒められる。

彼らは剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする。

国は国に向かって剣をあげず、もはや戦うことを学ばない。

ヤコブの家よ、主の光の中を歩もう。」

イザヤ書2章4～5節

### 主の祈り

**使徒信条** 我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。我はその独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、処女（おとめ）マリヤより生れ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、陰府にくだり、三日目に死人のうちよりよみがえり、天に昇り、全能の父なる神の右に座したまえり、かしこより来たりて、生ける者と死ねる者とを審きたまわん。我は聖霊を信ず、聖なる公同の教会、聖徒の交わり、罪の赦し、身体のよみがえり、永遠の生命を信ず。 アーメン。

### 讃美歌 531番 こころの緒琴（おごと）に

### 聖書 使徒言行録20章7～12節

7 週の初めの日、わたしたちがパンを裂くために集まっていると、パウロは翌日出発する予定で人々に話をしたが、その話は夜中まで続いた。8 わたしたちが集まっていた階上の部屋には、たくさんのともし火がついていた。9 エウティコという青年が、窓に腰を掛けていたが、パウロの話が長々と続いたので、ひどく眠気を催し、眠りこけて三階から下に落ちてしまった。起こしてみると、もう死んでいた。10 パウロは降りて行き、彼の上にかがみ込み、抱きかかえて言った。「騒ぐな。まだ生きている。」11 そして、また上に行って、パンを裂いて食べ、夜明けまで長い間話し続けてから出発した。12 人々は生き返った青年を連れて帰り、大いに慰められた。

### 牧会祈禱

天の父なる神様、聖霊降臨後第9主日の主日礼拝をささげることができる恵みに感謝いたします。本日は平和聖日です。私たちの時代の戦争の終結を記念し、今なお続く国家間の緊張緩和のため、恒久的な平和のため祈る者とならせてください。キリストの死のゆえに私たちに与えられた平和に思いを寄せることができますように。キリストの平和にふさわしく振舞う者とならせてくださいますように。

夏の暑さからお守りください。大雨の被害からお守りください。夏の諸行事を例年通り開催することができませんが、私たちの信仰をお守りください。特に青年たちの信仰の養いをお守りください。家庭や学校・教会での生活をお守りください。

キリストの平和が私たちの生活全体に与えられていることに感謝し、与えられた御言葉を支えとしてこの1週間を歩むことができますようお守りください。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。 アーメン

## 説教 「トロアスの礼拝」

牧師 高橋 潤

本日の聖書の御言葉は、パウロたちによる第3回伝道旅行の途上、トロアス滞在最終日、7日目夜の出来事です。第3回伝道旅行は、小アジアのエフェソで3年間、福音を語り、その後、ギリシャを経て、いよいよエルサレムへと出発する最終準備がトロアスです。パウロはトロアス滞在の最終日、パンを割き、御言葉を語り、礼拝を捧げていました。この礼拝は、何時に始まったのか記されていませんが、夜中まで続きました。トロアスでの最終日の夜の礼拝中、突然3階から窓辺で居眠りしていた青年が転落死する事故が起きました。この青年の名はエウティコ、彼は一日の仕事を終えて、パウロが語る福音を聞くために、週の初めの日、パンを裂くために集まった一人だと思います。4世紀以前は、週の初めの日、現在の日曜日ようではありませんでした。当時の人々は、日曜日にも働いていたと思われます。礼拝中の転落事故の原因について、使徒言行録は「パウロの話が長々と続いたので、ひどく眠気を催し、眠りこけて三階から下に落ちてしまった」と記しています。

彼は、パウロが司式する聖餐式に出席していました。大変熱心なキリスト者の青年だったと言えるでしょう。彼の礼拝への情熱を感じます。そのような、熱心な青年が転落事故に遭遇してしまいました。説教中の居眠りに対する天罰でしょうか。居眠り経験者として彼に同情する人は少なくないでしょう。これから教会をしょって立つ熱心な青年が礼拝中に転落し、事故死するという悲劇を私たちはどのように受け止めたら良いのでしょうか。

私たちがこの事故の目撃者であったら、神さまどうしてこんなに素晴らしい好青年を召してしまうのですかと叫び続けることでしょうか。説教中の居眠りが悪かったのですか、という声も聞こえることでしょうか。トロアス伝道のための大切な後継者を失ったと嘆き続ける人がいることでしょうか。神さまのなさることは、あまりにも非情ではないかと嘆くことでしょうか。更には、パウロ、あなたがあんなに長い説教をするからこんな事故が起きたのだと、説教者パウロに対して、責任追及する人もいないのでしょうか。私も説教準備の途中、明日の説教は短くしろ！という声が聞こえてくることがしばしばあります。悪魔の声か天使のささやきなのか、とまどいます。

さて、聖書を丁寧に読みましょう。礼拝中の突然の事故に対して、パウロは、真っ先に事故死した青年のところへ行きました。そしてパウロは、青年を抱きかかえ、「騒ぐな。まだ生きている」と言いました。そして、再び何事もなかったかのように御言

葉を語り続けました。

トロアスの礼拝におけるパウロは、マルコによる福音書5章の主イエスのように、会堂長ヤイロの娘の手をとって「少女よ起きなさい」（タリタ、クム）と言いません。使徒言行録9章のペトロのように、遺体に向かって「タビタ、起きなさい」と語りません。列王記上17章の預言者エリヤは「主よ、わが神よ、この子の命を元に返してください」と神に祈りましたが、パウロはエリヤのように祈りもしていません。

パウロは、主イエスやペトロやエリヤのように、パウロの名によって愛の言葉を発したり祈ったりする業を行っていないのです。誤解を恐れずに言うならば、パウロはこの悲劇的な事故を前にして何もしていないのです。エウティコを抱きかかえ、周囲の人々に騒ぐな、まだ生きていと語ったに過ぎないのです。これは、どのように理解すれば良いのでしょうか。

使徒言行録が語っていることは、トロアスの聖餐をとる礼拝で力を発揮したのは、パウロではないということを伝えているのです。本日の聖書箇所解説に「パウロが命を生き返らせる奇跡物語」と記されたものもあります。そうでしょうか。聖書には、そのようなことは書かれていないのです。ここでエウティコを生き返らせた力は、パウロの力ではなく、聖霊が支配する礼拝の力です。聖餐と御言葉の力に目を向けようと聖書は語るのです。

私たちがトロアスの礼拝において、目を向けなければならないのは、パウロの業ではなく、聖餐の恵みであり、福音の力なのです。トロアスにおけるパウロは、聖餐の恵みに全てを委ねて、信頼している姿です。人々が聖餐と御言葉から目をそらしている時、「騒ぐな、まだ生きてい」と語ったのは、聖餐と御言葉の力を信頼し信じ、御言葉の前に静まろうということではないのでしょうか。パウロは、エウティコの命を神の力に委ね切っているのです。それが、トロアスの礼拝におけるパウロです。

初代教会がトロアス伝道において経験した、神の出来事が、エウティコの復活です。12使徒の力でもパウロの力でもなく、御言葉にこそ復活の力、命を与える力があることがトロアスの礼拝で明らかにされたのです。

使徒言行録は、私たちが避けて通ることの出来ない死の問題に直面した時、パウロによって「騒ぐな」という言葉が響いたと伝えているのです。私たちは、死に際して、神の力が失ってしまったかのように騒ぐのです。福音が聞こえなくなったように騒ぐのです。私たちの叫びや嘆きで神の力を隠してしまうのです。だからこそ、パウロは「騒ぐな」と語ったのです。

エウティコの復活によって、パウロが語る主イエスの十字架と復活の恵みが、トロアスの礼拝を支配している事に注目したいと思います。パン裂きによって、神の赦しと神の命が与えられていることに目を向けなければなりません。

エウティコの復活は、パウロの業ではなく、周囲の人々の愛の業でもなく、神のご意志がここに明らかにされているのです。神にのみ、命を支配する力があるのだと宣言されているのです。パウロの説教が長かったのが問題なのではありません。そのようなことは、ここに記されていません。神が非情だったのでもありません。神は、私

たちの命の支配者であることを弁え、騒ぐことなく、神の御前に御言葉の力をしっかりと受け取るものにされたいと願います。

私たちは、日曜日に礼拝を捧げる時、人間の力に頼るのではなく、神を信頼し神こそが命の源であることを覚えるのです。人間の力が支配しているように見える世界の中で神を礼拝し、神に信頼して生きることによって真の命を知ることができるのです。

コロナ禍の中で、世界の死者数が日々報道されています。私たちは復活を信じる信仰から目をそらしていないでしょうか。神の声より人間の声に耳を傾けていないでしょうか。私たちは死に際して、一番不信仰に陥りやすいのです。死への準備をする時、死に際して騒ぐことなく、キリストに抱かれている事を思い起こしたいと思います。死に際して、キリストを隠してしまうのではなく、死に勝利した主イエスの復活に目を注ぎたいと願います。トロアスの礼拝において、御言葉が響き渡る中、十字架の主がエウティコに臨んでくださったのです。主イエスが十字架で死んだということは、私たちを生かすための死でした。私たちの命を救うための死です。人間の命を滅ぼさないために、主イエスは死んでくださいました。十字架の恵みを通してエウティコは、復活の恵みをいただきました。この聖なる神の時、私たちは騒ぐことなく神がなさる復活の業に目を向け、救い主を仰ぐのです。神の御業をしっかりと見続ける礼拝を通して、御言葉を聞き続ける者となりましょう。ここに神の平和が実現します。

祈り 天の父なる神さま。平和聖日の朝、トロアスの礼拝における神の御業を見ることがゆるされ、感謝いたします。あなたの御前で騒ぐ私どものために、聖なる時を与えてくださり感謝いたします。神の御前に立ち続ける者とさせてください。

キリストの御名によってお祈りいたします。 アーメン

#### 祈 禱(各自、自由にお祈りください)

祈禱課題 ウイルスの脅威の中であって、平和と平安をお与えください

夏の大雨によって被災した方々に慰めと希望を与えてください

教会学校に繋がる生徒たちの生活と学習の日々が守られるように

創立記念礼拝で新たに銀座教会に加わった兄弟姉妹たちのために

讃美歌 514番 よわきものよ、われにすべて

献 金

頌 栄 544

祝 禱

主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。

アーメン